

## 編集後記

本誌は、2020年度より誌名を『宇都宮共和大学都市経済研究センター年報』とし、まちづくり活動や産官学連携分野により特化した内容になりました。

本号の巻頭の特集1では、2022年7月に本学宇都宮シティキャンパスで開催したシティライフ学シンポジウム「栃木県のインバウンド観光復興戦略を考える—食と農，産業と文化，高度先進医療とコンベンションの魅力発信—」の様相を収録しました。公益財団法人日本交通公社理事・観光政策研究部長の山田雄一氏を基調講演にお招きし、コロナ収束後の観光需要の動向を念頭に、観光産業の特性と課題，地域経済に対する役割，コロナ収束後の方向性について，研究知見を交えながら解説していただきました。また、栃木県内外で観光復興に取り組んでおられる5名の方々と交えパネルディスカッションをしました。

特集2では、2023年2月に本学宇都宮シティキャンパスで開催したシティライフ学シンポジウム「スポーツ・文化の振興によるまちづくり」の様相を収録しました。本独立行政法人日本スポーツ振興センター情報・国際部長の和久貴洋氏を基調講演にお招きし、近年注目を集めているスポーツや文化を活かしたまちづくりの動向と今後の方向性について研究知見や海外の状況等を交えながら解説していただきました。また、栃木県内外でスポーツ振興，文化振興に取り組んでおられる3名の方々と取り組み事例をご紹介いただきました。

また、2022年度シティライフ学部卒業論文のうち、優秀論文賞となった小山市の中心商店街の変容に関する卒業論文の骨子を掲載しました。2022年度も本学ゼミナールは、学外の学生提案発表会で多数の入賞を遂げました。大学コンソーシアムとちぎ主催「第19回学生&企業研究発表会」では、本学ゼミナールが金賞と3つの企業冠賞を受賞しました。金賞は3回連続となります。さらに、宇都宮市主催「大学生によるまちづくり提案」においても本学ゼミナールが1位，3位，特別賞を受賞しました。1位は2年連続，上位3位入賞は8年連続となります。都市経済研究センターでは、学生への支援としてまちづくり提案前にリハーサルを主催しました。本稿の「学生による地域連携活動報告」，「学生提案成果報告」に、本学学生による地域と連携したまちづくり提案活動の成果を多数掲載しましたので、ぜひご一読ください。

これからも宇都宮共和大学都市経済研究センターは、「市民社会に開かれた大学」の一翼を担うため、都市の生活科学（シティライフ）を学際的・実証的に調査研究するとともに、まちづくり，市民公開講座，講演会，セミナー，NPOとの連携など多様な活動により，地域社会や都市の発展に貢献することを目指して活動していきたいと考えております。今後とも，ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（編集：宇都宮共和大学都市経済研究センター副センター長・運営委員長 渡邊瑛季）